



第1回 防災教育推進連絡協議会 in 釜石市

「いのちの教育」の取組



釜石市教育研究所 いのちの教育研究推進委員会

1 防災教育に取り組んだ理由

【実態】

△ 内陸出身の教員が多く、津波についての知識や避難などの経験がほとんどなかった。

△ 地域の防災訓練への、児童生徒・地域住民の参加が少なかった。

→児童生徒のみならず、地域住民全体の災害に対する危機感や備えの重要性に対する認識が薄く、それらを高揚させるための知識や方策が学校になかった。

教員向けアンケート調査実施 (平成17年実施)

問3 「あなたは釜石市にどの程度の津波が来ると予測されているのか知っていますか？

→ 知っている・・・56.7% 知らない・・・43.3%

問4 「あなたは学校の授業等で、津波に関する話を児童・生徒にしたことがありますか？

→ 毎年している・・・24.0%

→ 何度かした・・・40.4%

→ したことがない・・・35.2%

市内教職員の津波に対する認識の差が浮き彫りに

2 釜石市の防災教育推進について

「子どもの安全をキーワードとした津波防災」

- (1)群馬大学
- (2)釜石市防災課(現 防災危機管理課)
- (3)釜石市教育委員会および各小中学校 の連携

目的は・・・

10年以内に99%の確率で起こると言われていた宮城県沖地震と、それが引き起こす津波から命を守るために・・・

平成20年度からの2ヶ年計画で、防災教育を実践するためのプログラムを作成し、その実践によって、

児童生徒のみならず、保護者や地域住民の防災の意識向上を図ること。

片田敏孝教授のメッセージ

「釜石市に地震・津波は必ず来る。その時、子どもたちから犠牲者を一人も出さないような取組を進めるべきである。」

→津波避難の3原則

その1『想定にとられない』
その2『最善を尽くす』
その3『率先避難者になれ』

「海の恵みを享受できる釜石では、地震・津波を必要以上に恐れるのではなく、津波があったら率先して逃げるという姿勢を教え続けることが大切。

→釜石に住まう者のお作法

釜石市教育委員会と 市内小中学校の取組



防災教育WGで作成した津波防災教育マニュアル (平成22年度版…全90頁)

研究協力校6校の小・中学校6校の教諭で構成するワーキンググループ(以下「WG」)メンバーにより、授業で使用する津波防災教育手引きの作成に取り組んだ。

平成22年度以降は、小・中学校において順次、学校教育計画に「津波防災教育」を掲げ、手引きを使用した取り組みを行った。



3 いのちの教育へ

【目標】

「未来を担う人づくり」を進めるために、**教育活動全体で防災教育を核とし、自他の命を大切にしてい**くための資質・能力を向上させるとともに、**地域に対する理解と愛情を育てる。**」

いのちの教育の充実のために

- ①【各校での取組】
→防災教育実践事例集の発行
- ②【釜石市教育研究所 研究班】
(1)授業づくり研究班(国語)
(2)授業づくり研究班(算数・数学)
(3)幼保小連携研究班
(4)中学校郷土資料集活用委員会
(5)いのちの教育推進委員会

いわての復興教育副読本



いのちの教育の視点

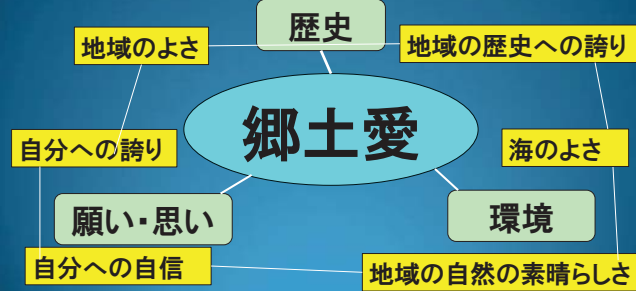
教育活動全体で……
(各教科・領域との関連)



10

いのちの教育の視点

未来を担う人づくり



関連を図りながら指導の充実を図る

11

これまでの取組で……

【成果】

- ・児童生徒の防災に対する意識が高まった。
- ・地域のよさに気づき、よりよくなかかわってこうとする気持ちが高まってきている。

【課題】

- ・教科や領域、行事と関連づけた指導計画の検討。
- ・児童生徒や地域の状況の変化に対応した計画の見直し。

12

いのちの教育の充実のために

- ①それぞれの学習がすべて「いのちの教育」の目標である「人づくり」につながっていることを十分に意識すること。
- ②「何のために」「どのような力を育てたいか」「そのためにどのような活動を行うのか」を十分に検討すること。
- ③教科の関連性を十分に図りながら指導を行っていくこと。

13

今後は……

☆教育課程への位置づけ☆

- 計画の立案
- 実際の指導
- 評価
- 充実・改善

☆計画的かつ組織的な取組とする

充実と継続を図ること…

14